

男子部中等科・高等科

「日本一の寮を目指して」

真野 啓之

寮監（大人）を常駐させず基本的に生徒による自治寮として運営されている東天寮。そんな寮をもっと多くの方々に知ってもらいたい、もっと魅力的で学びの詰まった寮にしたい、という思いで「日本一の寮を目指して」というタイトルにした。

男子部が創設されたのが1935年。すぐに近隣の一軒家を借りる形で東天寮も創設され、7名の生徒が初めての東天寮生となった。当初は教師が寮で宿直していたが、創設から2か月後に宿直が廃止され、「自治制」が始まった。以来、80年余りが経過し、現在の4代目東天寮まで続いている生徒による自治寮。これからも生徒たちが誇りを持って自立した生活を営み、より学びが深まる自治寮にするにはどうすれば良いか。時代の変化と共に変えた方がよい部分と変えてはならない部分を見極めて日本一の寮を創っていく。そのような議論を今回の学業報告会の準備期間を通してできたことは大きな成果であった。

I. はじめに

メンバーの募集を行ったところ、予定していた人数を大幅に超える生徒が応募してくれたことから、課題作文を提出してもらい選考を行った。その結果、中等科1年6名、高等科1年7名、高等科2年1名、高等科3年4名の合計18名という人数で準備をして報告をまとめることになった。

グループのリーダーは高等科1年から選び、今後の寮をどのように創っていけばよいか、柔軟な頭でたくさんの意見を出してもらい、実際に自治寮の責任を持っている高等科3年生とも議論を深めることができた。高等科3年生のメンバーのうち、2名が寮長経験者であることも大きな推進力となった。

II. 報告会までの準備と学習

- (1) 図書館に所蔵されている学園新聞や創設当時の寮の日記などから東天寮についての歴史を調査
- (2) 東天寮のありたい姿、あるべき姿を考える中で、いまの寮の課題を抽出
- (3) 他校の寮（茗溪学園、自由の森学園、暁星国際）について調べて共有
- (4) 他校の寮（茗溪学園中学校高等学校）の見学と他校生徒との意見交換【写真】

(5) 清風寮の寮長、歴代寮長との意見交換



【写真】

準備を進める中で、「寮で犬を飼ってはどうか」というアイデアが生まれ、これまでの東天寮で飼育していた犬について卒業生から情報を収集し、いまの東天寮で飼うことについて、その是非や問題点などを男子部生にアンケート調査を行ってまとめることもした。

中等科1年生は、寮の生活について報告するにあたり、模造紙1枚にそれぞれ水彩で、朝食の自炊当番、食事用意（配膳の様子）、食事当番（食器洗いの様子）、掃除の風景、起床の風景、集中勉強の様子、休日の外出風景、食事風景、手洗い洗濯の様子を描き、9枚をつなげて1枚の作品とした。

また、平日と休日の基本時間も模造紙に大きく毛筆で書くことも行った。

高等科の生徒は、茗溪学園中学校高等学校の寮の見学が決まって、東天寮の紹介を考える中で、今後も絶対に変えてはならないところや強みについて議論をした。一番大切な事として挙げたのは、やはり生徒による自治。寮に大人を入れないで生徒の主体性を基に営む生活は何があってもやり抜くという強い意志を感じることができた。そして、学年縦割りでの協力しながらの生活も大きな強みとして認識されている。また、現在の基本時間も満足度が高く、変えてはならないと考えている生徒が多かった。

清風寮の寮長、歴代寮長との意見交換では、寮のルールや、公の仕事の種類や繰り返しの方、東天寮にある様々な課題の解決のためのヒントを探る質問など、大小様々な事柄について、同じ学校の寮生同士で忌憚のない意見交換ができていた。

準備期間中、色々な人の話を聞いたり、調べたり、様々なことを考えてまとめるのには相当苦労したが、最後は、誇りを持って寮生活を送るにはどうすれば良いか、ということに絞って議論をできていたと思う。

II. 報告の内容

(1) 寮の基本時間の説明 [中1]

基本時間を寮生に知らせる「寮番」の紹介と実演、朝食後の掃除、手洗い洗濯について洗濯板とたらいを見せながら紹介をし、休日の過ごし方や数カ月に一度の誕生日会のことなどを説明した。

(2) 犬を飼うには [高1・高2]

昔の寮で犬が実際に飼われていたことを話して、男子部生徒に行ったアンケート結果の説明と、飼うためにクリアしなければならないことについて考えたことを説明した。

(3) 自治の責任を担う生徒の思い [高3]

クラスとして「最高のパパになる」という目標を掲げていること、寮生みんなの父親として下級生と接することができるように、室長として工夫していることや週に一度の6年(高3)会議、委員について説明した。

(4年) 寮をより良くするには [高1]

基本時間を守れない、スマホなどの電子機器に没頭してしまったり、公序良俗に反することをしてしまったり、課題は山積しており、これらの課題に対してどのように取り組んでいけば良いのか、議論したことを報告した。

III. 終わりに

今回、特に高等科1年の生徒たちがとても真剣に取り組んでくれたことは嬉しかった。彼らはあと2年もすれば高等科3年になって寮の自治を担う責任を持つ訳だが、高等科1年のこの時期により具体的な問題意識を持って課題解決の糸口を探ったり、あるべき寮の姿を考えることができたのは生徒たちにとっても大きな収穫になっただろう。

ルールを厳しくして生活を向上させる方法を取るのか、一人ひとりの意識を変えることで生活を向上させるのか。高等科3年生や中等科1年生だけが頑張って生活が営まれる寮で良いのか。なかなか正解を見いだせないものばかりだが、長い歴史を持つ東天寮の基本的理念に立ち返って、寮生全員で今後のあり方や課題について議論をして、寮が良くなるための最善の判断をできればと思っている。

今後は、寮をより良いものにするために、今回のメンバーにも協力してもらって、高等科3年生と一緒に寮生活を引っ張っていく役割を担ってもらおうと考えている。また、他校の寮の見学を行うなど、2018年度も継続して活動を行っていきたいと考えている。

今回の報告をまとめるにあたり、茗溪学園中学校高等学校の教員と生徒の皆様、清風寮の寮生の皆様には大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。